

平成 19 年
2 月 28 日

病害虫発生予報 3 月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

全ての農作物に残留農薬基準が設定されています！！

薬剤散布の際は周辺作物へ飛散しないよう十分注意しましょう

< 目 次 >

． 今月の予報

【注意すべき病害虫】

ナシ：黒星病	1
果樹共通：果樹カメムシ類	1
イチゴ：ハダニ類	2
促成キュウリ：うどんこ病	2
促成キュウリ：褐斑病	3
施設野菜(イチゴ, ピーマン, トマト, キュウリ)：灰色かび病	3

【その他の病害虫】	4
イチゴ, 促成・半促成ピーマン, 促成トマト, 促成キュウリ, メロン, 春レタス, 春ハクサイ	

． 病害虫ミニ情報

水稻の育苗中に発生する病害の対策について	6
農薬登録速報(1月)の概要	7

． 今月の気象予報

． テレホンサービス

029(226)5321, 6131

本文に記載された農薬の登録内容は、平成19年2月21日現在のものです。
農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用基準、注意事項等を確認してください。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。
茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445
予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。
ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

・今月の予報
【注意すべき病害虫】

ナ シ

1. 黒星病

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
早い	平年並	県下全域

[予報の根拠]

平成 18 年 10 月下旬の調査で、ナシ黒星病秋病斑の発病度及び発生地点率は平年並で、ナシ黒星病菌の越冬量は平年並と予想される。

気象予報によると、向こう 1 か月の気温は高く、天気は平年に比べ曇りや雨の日が多いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

本年は気温が高く推移しているため、防除時期が遅れないよう、圃場をよく観察し、ナシの生育に合わせて防除を行う。

果そう基部での発生は葉や果実への二次伝染源となるため、防除暦にしたがって、催芽～萌芽期の薬剤防除を行う。

薬剤散布は、かけむらのないよう丁寧に行う。薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

罹病した葉は一次伝染源となるため、園内に落葉が残っている場合は落葉を集め、土中深く埋めるなど適切に処理する。

果樹共通

1. 果樹カメムシ類

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
-	少ない	県下全域

[予報の根拠]

昨年、秋のヒノキにおける果樹カメムシ類の越冬前の成虫数は平年より少ない(表 1)。

本年 2 月に実施したチャバネアオカメムシの越冬調査では、越冬地点率および越冬成虫は平年より少ない(表 2)。

[防除上注意すべき事項]

チャバネアオカメムシは、ヒノキ・スギの球果を主な餌とし、ヒノキ・スギ林や、それらの近くのクヌギ等の落葉樹林の落葉の下等で越冬している。このため、発生が少ない年でも、これらの越冬に適した場所の近くの園や、例年発生が認められる園では発生する可能性があるため注意する。

多目的防災網(6 mm 目以下あるいは 9 mm クロス目以下)を張るなどの物理的な防除対策を行う。

(果樹共通 果樹カメムシ類 続き)

果樹では、まずウメやナシの幼果が加害されるので、飛来初期(5月頃)から園内をよく観察するとともに、今後の発生情報に注意して防除を行う。

(平成19年2月13日発表の病害虫情報 No.7 参照)

表1 果樹カメムシ類のヒノキにおける発生状況調査

年次	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
虫数(頭)	104	6	0	120	3

表2 チャバネアオカメムシの越冬量(調査時期:2月 落葉30リットルあたりの虫数)

地域	地点数	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	平均値
県北	21	1.7	1.6	0.2	22.4	0.3	3.6	0.1	0.1	21.7	0.1	5.2
鹿行	9	0.7	0.6	0.2	2.7	0.0	0.7	0.0	0.1	1.8	0.0	0.7
県南	6	2.3	3.6	0.0	1.7	0.5	0.3	0.8	0.0	0.5	0.2	1.3
県西	3	0.0	0.0	0.0	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	3.7	0.0	0.5
全県	39	1.3	1.5	0.2	12.2	0.3	2.3	0.2	0.1	13.1	0.1	3.2
全県の越冬地点率(%)		55	37	11	75	22	48	10	7	74	10	-

イチゴ

1. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

2月下旬現在、被害葉率は平年並で、発生地点率は平年より高い。

気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いと予想され、ハウス内は発生を助長する条件となる。

[防除上注意すべき事項]

発生が多くなると防除が困難となるため、発生の少ないうちに防除する。

薬剤散布にあたっては、下葉を取り除き、葉裏や葉柄にもよく付着するよう十分な量で丁寧に散布する。

薬剤抵抗性ハダニの出現を防ぐため、同一薬剤及び同系統薬剤の連続散布は行わない。

促成キュウリ

1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	やや多い	県下全域

(促成キュウリ うどんこ病 続き)

[予報の根拠]

2月下旬現在，発病葉率は平年並で，発生地点率は平年より高い。
気象予報によると，向こう1か月の天気は平年に比べ曇りや雨の日が多く，気温は平年より高いと予想され，ハウス内は発生を助長する条件となる。

[防除上注意すべき事項]

まん延すると防除が困難となるため，発生の少ないうちに防除を徹底する。
薬剤は，十分な量で丁寧に散布する。また，耐性菌の出現を防ぐため，同一薬剤及び同系統薬剤の連続散布は行わない。

2．褐斑病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	多い	県下全域

[予報の根拠]

2月下旬現在，発病葉率，発生地点率ともに平年よりやや高い。
気象予報によると，向こう1か月の天気は平年に比べ曇りや雨の日が多く，気温は平年より高いと予想され，ハウス内は多湿になりやすく発生を助長する条件となる。

[防除上注意すべき事項]

多湿条件下での伝染力が高いので，十分に換気しハウス内を除湿する。
発生の少ないうちに，防除を徹底する。
新たな伝染源とならないよう，病斑部は取り除いてハウス外に持ち出し処分する。
薬剤は，十分な量で丁寧に散布する。また，耐性菌の出現を防ぐため，同一薬剤及び同系統薬剤の連続散布は行わない。(平成17年度農業総合センター主要成果参照)

施設野菜(イチゴ，ピーマン，トマト，キュウリ)

1．灰色かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い(トマト) 平年並～やや多い (イチゴ，ピーマン，キュウリ)	県下全域

[予報の根拠]

2月下旬現在，促成トマトでやや多く，促成ピーマン，半促成ピーマン，イチゴ，促成キュウリで，平年並の発生である。
気象予報によると，向こう1か月の天気は平年に比べ曇りや雨の日が多く，気温は平年より高いと予想されることから，ハウス内は多湿になりやすく発生を助長する条件である。

(施設野菜 灰色かび病 続き)

[防除上注意すべき事項]

ハウス内が多湿になると発生が助長されるので、換気、送風、暖房等によりハウス内の湿度を低く保つ。

発生の少ないうちに、防除を徹底する。

発生した場合は、発病部位を取り除き、ハウス外に持ち出して処分する。

薬剤散布は、薬液が乾きにくくなる午後からは行わず、晴れた日の午前中に行う。また、曇雨天が続き薬液が乾きにくい場合は、くん煙剤を利用する。

薬剤は、十分な量で丁寧に散布する。また、耐性菌の出現を防ぐため、同一薬剤及び同系統薬剤の連続散布は行わない。

薬剤散布の際は、周辺作物等への飛散（ドリフト）に十分注意して行うこと。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	発生量：平年並 ～やや多い	2月下旬現在，発病葉率で平年よりやや少なく，発病果率でやや多い発生である。
	コナジラミ類	発生量：平年並	2月下旬現在，平年よりやや少ない発生である。今後は，気温の上昇に伴い増加する。
促成・半促成 ピーマン	うどんこ病	発生量：平年並 ～やや多い	2月下旬現在，平年並の発生である。
	アザミウマ類	発生量：平年並 ～やや多い	2月下旬現在，平年並の発生である。
促成 トマト	ハモグリバエ類	発生量：やや多い	2月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
促成 キュウリ	べと病	発生量：平年並 ～やや多い	2月下旬現在，平年並の発生である。
	タバココナジラミ類	発生量：やや多い	2月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
メロン	べと病	発生量：平年並 ～やや多い	2月下旬現在，平年並の発生である。
	つる枯病		
	菌核病		
	ハモグリバエ類	発生時期：やや早い 発生量：やや多い	2月下旬現在，平年よりやや多い発生である。

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
春レタス	菌核病	発生量：やや多い ～多い	2月下旬現在，平年よりやや多い発生である。トンネル内が多湿にならないよう日中は換気を十分に行う。また，発生を認めた場合は，菌核が圃場に残らないよう発病株を抜き取り，圃場外へ持ち出す。
	腐敗病	発生量：平年並 ～やや多い	2月下旬現在，平年並の発生である。トンネル内が多湿にならないよう日中は換気を十分に行う。
	アブラムシ類	発生時期：早い 発生量：やや多い ～多い	2月下旬現在，平年よりやや多い発生である。発生初期の防除を徹底する。薬剤抵抗性アブラムシの出現を回避するため，同一薬剤の連続使用，多用は行わない。
春ハクサイ	べと病	発生量：やや多い ～多い	2月下旬現在，平年よりやや多い発生である。トンネル内が多湿にならないよう日中は換気を十分に行う。
	白斑病	発生量：平年並 ～やや多い	2月下旬現在，平年並の発生である。トンネル内が多湿にならないよう日中は換気を十分に行う。

トマト黄化葉巻病

本病は低温条件下では病徴が現れにくいいため，感染している場合は，今後気温の上昇とともに病徴が現れると考えられる。

トマト黄化葉巻ウイルスは，冬季は促成ハウス内の罹病株や，保毒したタバココナジラミ類に存在すると考えられる。このため，今後の感染拡大を防ぐためには，保毒虫をハウスから野外に出さないことが最も重要となる。

[防除対策]

発病が認められた株は，感染源となるため早期に抜き取り，ビニール袋に入れて密封し，株を枯死させてから処分する。

タバココナジラミ類は，発生が多くなると防除が困難となるため，黄色粘着板を利用するなどして発生に注意し，初期防除に努める。なお，薬剤散布にあたっては，薬剤抵抗性の発達を抑えるため同一系統薬剤の連続散布は行わない。

タバココナジラミ類は葉裏に寄生するため，薬液は下方から吹き上げるように散布する等，葉裏にも十分かかるよう丁寧に行う。

タバココナジラミ類の生息場所となるハウス内外の除草を徹底する。

ハウスの開口部に設置が可能な場合は，防虫ネット（0.4mm目合い）を設置し，タバココナジラミ類の外部への飛び出し及び，外部からの飛込みを防止する。なお0.4mm目合いの防虫ネットを設置した場合，通気性が低下し，灰色かび病等，病害の発生が助長されたり，ハウス内の温度が高くなったりすることが予想されるので，ダクト通風やサイドの開閉等，温湿度管理には十分注意する。

水稲の育苗中に発生する病害の対策について

育苗中に発生する病害は、いったん発生すると防除が難しいため、予防的な対策をたてましょう。病原菌に汚染された種子、用土、資材が伝染源となるため、無病の種子を用いるとともに、健全な用土や資材を用いることが必要です。また、育苗中は適正な温度、水管理を行うことが大切です。

1. 病害の種類と対策について

育苗中に発生する病害は、主にいもち病、ばか苗病等の糸状菌（カビ）による病害と、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病等の細菌による病害があります。これらは病原菌に汚染された種子が伝染源となるので、防除には種子消毒が有効です。種子消毒については、病害虫発生予報2月号をご覧ください。

この他、フザリウム菌や、リゾープス菌等の糸状菌による苗立枯病は、病原菌に汚染された土壌や育苗資材が主な伝染源です。健全な用土や資材を用いるよう、こころがけましょう。

2. 作業のポイントについて

1) 播種前の作業について

前年使用した育苗箱は、よく洗浄し、ケミクロンG又はイチバンで消毒します。

育苗用土は、殺菌された pH4.5～5.5 のものを用います。自分で用土を作成する場合は pH を調整し、苗立枯病の対策として薬剤を処理します。

薬剤には、育苗用土に混和するもの（ダコニール粉剤、タチガレエース粉剤）と、播種時等に薬液を土壌灌注するもの（ダコニール1000、タチガレエース液剤、バリダシン液剤5）があります（平成19年2月21日現在）。

各薬剤の使用については、農薬ラベルに記載の使用方法、注意事項を確認のうえ使用してください。なお、後作での薬害や、意図しない農薬が吸収される可能性があるため、薬剤の処理は、他の農作物を栽培する場所では行わないでください。

育苗ハウス内の水が溜まる部分は、過湿となって、病害が発生しやすくなります。育苗ハウスの床は平らに整地し、育苗箱の下には波形の資材を敷く等、水はけを良くして、水が溜まらないようにして下さい。

2) 播種後の管理について

育苗中の極端な低温や高温は、病害の発生を助長します。育苗ハウス等の温度管理には十分注意して下さい。

出芽時の温度は28～30とし、必要以上に高めないようにします。出芽が悪い、ムラがあるからと温度を高めると、もみ枯細菌病等の発生を助長します。均一な出芽のためには、浸種時に適温でじっくり吸水させてから鳩胸状態まで催芽（芽出し）して播種することが大切です。

緑化期（出芽揃い～本葉第1葉期）までは、昼間20～25、夜間は15～20とします。

硬化期は昼間20～25、夜間10～15とします。緑化期、硬化期は多湿になりすぎないように注意し、かん水量は夕方にはやや乾く程度とします。

農薬登録速報（1月）の概要

平成19年1月期間中（1/1～1/31）に新規・変更登録のあった農薬は、以下のとおりです。
なお、農薬の使用にあたっては、必ずラベル等を確認してください。

殺虫剤・殺菌剤・殺虫殺菌剤・殺そ剤等

新規> アクタラAL, クミアイビームキラップジョーカー粉剤DL, クムラス,
コラトップスタークル1キロ粒剤, コラトップ粒剤24, サンケイクムラス,
シンジェンタコラトップスタークル1キロ粒剤, トレノックスフロアブル,
リンバー顆粒水和剤, 協友スミチオン粉剤3DL, 協友パダンSG水溶剤,
協友パダン粒剤4, 協友ボルテージ乳剤, 協友ボルテージ粒剤6
変更> STMR, ジョーカーEW, アカリタッチ乳剤, アクタラ粒剤5,
アクタラ顆粒水溶剤, アミスター20フロアブル, オリブライト1キロ粒剤,
カスミンボルドー, カダンセーフ, カッパーシン水和剤, カリグリーン,
カルメート55, ガンバ水和剤, クニ印石灰窒素50, クニ印石灰窒素55,
クミアイコサイドDF, クミアイダコレート水和剤, ゲットアウトWDG,
コープケミカル石灰窒素50, コサイドDF, サブリナフロアブル,
サンケイサブリナフロアブル, サンケイスマロディー乳剤, サンケイダズバンベイト,
ジマンダイセン水和剤, スミロディー乳剤, ダントツフロアブル,
ダントツ水溶剤, ダントツ粒剤, チオノックフロアブル, トアロー水和剤CT,
ドウグリン水和剤, トリフミン水和剤, トルファン, ネマモール粒剤30,
ノンプラスダントツH粉剤DL, パンチョTF顆粒水和剤, プレオフロアブル,
ホクコーイモチエースリンバー粒剤55, ホクコーキラップフロアブル,
ホクコーゲットワン粉剤DL, ホクコーリゾレックス水和剤, ポタニガードES,
モスピランSL液剤, ヤシマスミロディー乳剤, ヤシマトリフミン水和剤,
ラグビーMC粒剤, リゾレックス水和剤, 協友ダントツフロアブル, 協友ダントツ水溶剤,
協友ダントツ粒剤, 軍配印石灰窒素50, 軍配印粒状石灰窒素55, 三共コサイドDF,
昭和ダコレート水和剤, 石原トリフミン水和剤, 石原ネマトリンエース粒剤,
石原ラグビーMC粒剤, 日農オマイト水和剤, 日農モスピランSL液剤,
武田ダコレート水和剤

除草剤等

変更> DASガレースG, DASガレース乳剤, ガレースG, ガレース乳剤,
キラ星1キロ粒剤, ゴウワン1キロ粒剤51, ゴウワン1キロ粒剤75,
ゴウワンLフロアブル, ゴウワンフロアブル, サンダーボルト007AL,
タフラー乳剤80, プリグロックスL, マイゼット, ラウンドアップハイロード,
石原ワンオール粒剤

植調剤等

変更> ジベレリン協和ペースト, タチガレン液剤, 石原トマトトーン, 日産トマトトーン

失効農薬

オキシンドーフロアブル, オフナック粒剤, クサゴーン水和剤,
クサメッツ1キロ粒剤51, クサメッツ1キロ粒剤75,
クミアイアミスター20フロアブル, スリパンス, セリタード粒剤5,
ディブテレックス水溶剤80, デュポン田美人A1キロ粒剤36, トマトラン液剤,
トモノトレボン乳剤, トモノトレボン粒剤, ホクコークサメッツ1キロ粒剤51,
ホクコークサメッツ1キロ粒剤75, ホクコークレバー粒剤,
ホクコーサンドファンC水和剤, ホクコーブローダックス乳剤,
ヤシマラブサイドベフランバッサ粉剤DL, 兼商テルスタースプレー,
大塚ライザー粒剤20, 田美人A1キロ粒剤36, 日産クサゴーン水和剤,
日産テルスタースプレー, 日産ブローダックス乳剤

農薬の登録失効は、同一成分の農薬においても販売メーカー毎になりますので、ご注意願います。

・ 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 2 月 24 日から 3 月 23 日)

気象庁 (平成 19 年 2 月 23 日 発表)

< 向こう 1 か月の気温 , 降水量 , 日照時間の各階級の確率 (%) >

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	20	30	50
降水量	関東甲信全域	20	40	40
日照時間	関東甲信全域	40	40	20

[概要]

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう 1 か月の平均気温は高い確率 50% です。降水量は平年並または多い確率ともに 40% です。日照時間は平年並または少ない確率ともに 40% です。

< 1 週目の予報 > 2 月 24 日 (土曜日) から 3 月 23 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 50%

< 2 週目の予報 > 3 月 3 日 (土曜日) から 3 月 9 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 50%

< 3 週目から 4 週目の予報 > 3 月 10 日 (土曜日) から 3 月 23 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 低い確率 40%

・ テレホンサービス

下記の情報を 24 時間提供しています。リアルタイムな情報を提供するために、病害虫の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

電話番号 : 029 (226) 5321 , 6131

3 月上旬 施設野菜病害虫の発生状況と防除対策について

3 月下旬 水稻育苗期間中の病害対策について

4 月上旬 ナシ病害虫の防除及び麦類の赤かび病対策について